

キトラ古墳墳丘復元の要点

①墳丘の復元にかかわる発掘調査成果

復元にかかわる基礎データは、平成9年度の明日香村教育委員会による発掘調査成果に基づく。

- a. 2段築成の円墳〔上段径 9.4 m 下段径 13.8 m〕
- b. 墳丘下段は、全周せずに背後の丘陵斜面に取り付く。復元に関しては、発掘調査区で検出したラインを踏襲し、テラスと下段は、背後の斜面にぶつける形でおさめる。
- c. テラス幅は、西地区南側壁面の土層図より 1.7 mと想定される。丘陵斜面にぶつかる北側のテラス幅については、北地区西側壁面の土層図より 1.1 mと想定される。

②削平部分について

墳丘南～西側については削平が大きく、裾位置や標高等の情報が欠如している。そのため、その部分に関しては、以下に述べるいくつかの前提を基にして形状を復元した。

- a. 平面形は正円形

平面形状は、正円形、不整円形、多角形など、様々な可能性が考えられるが、調査で検出された上・下段裾が正円形の円弧とほぼ一致するため、上・下段とも正円形として復元した。

- b. 石室中心と墳丘中心は同一点

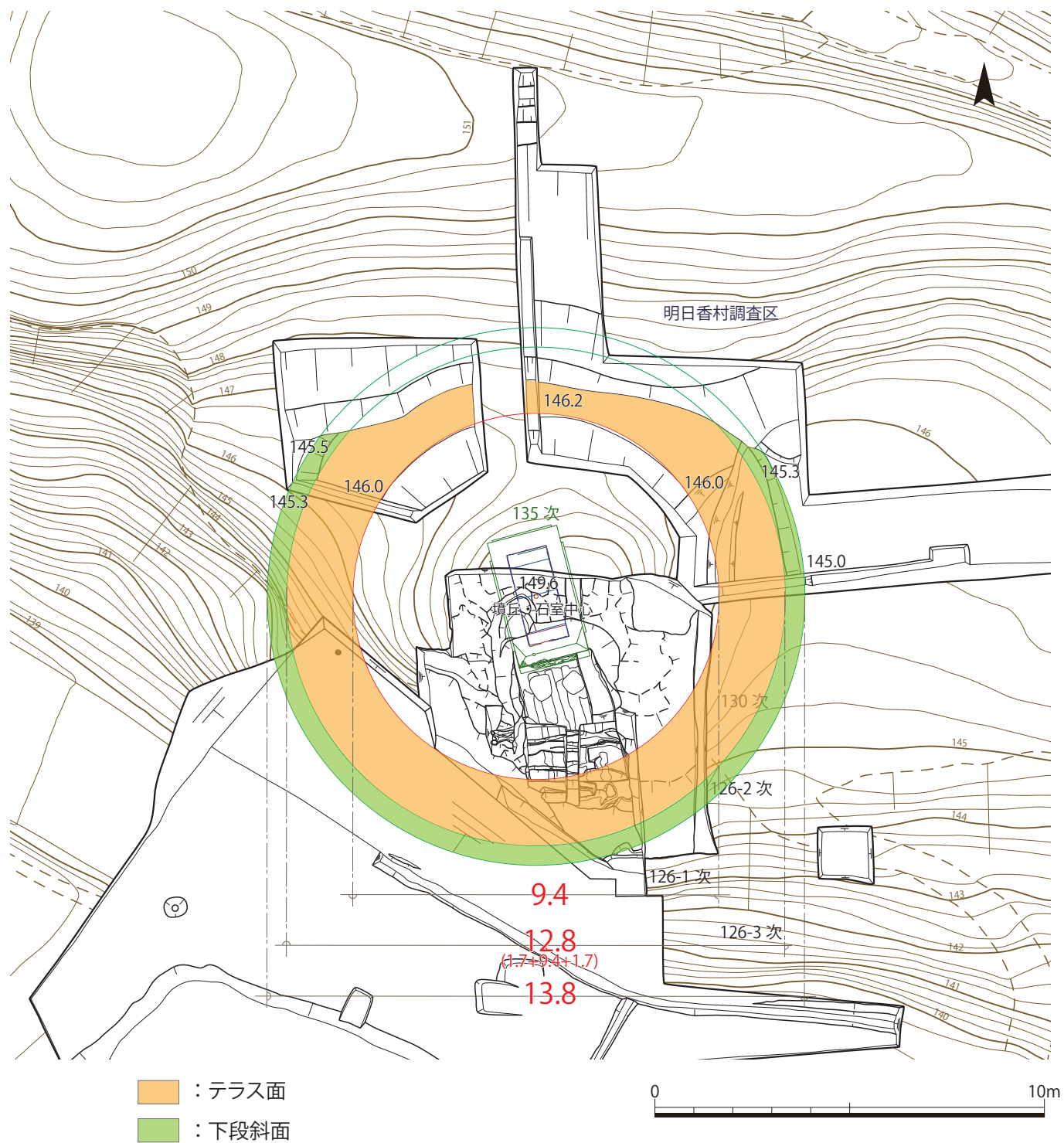
調査で検出された上下段の裾ラインを基に復元した墳丘の中心は、石室の中心とほぼ一致する。そのため、両者は同一の中心に基づいて設定されたと考えられる。

- c. 立面形は東西対称

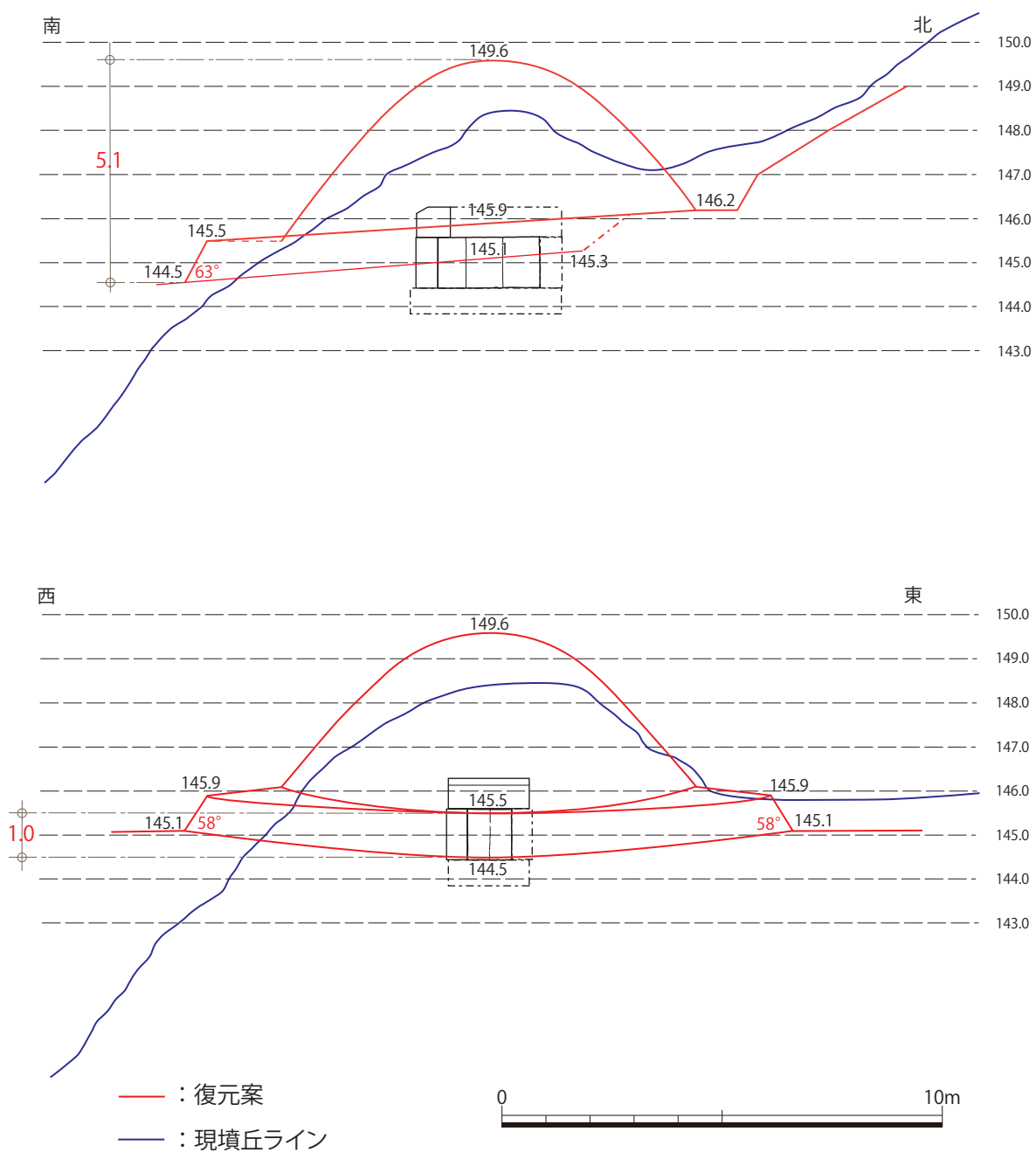
立面形については、墳丘東西の標高は石室主軸を挟んで対称であったと仮定し、かつ発掘調査区で検出した各所の標高と概ね整合するよう、立面形を復元した。

③墳頂高について

墳頂の高さについては、復元根拠が乏しい。残存している墳頂高（標高）が 148.6 m であるため、築造当初の墳長高はそれ以上であったと判断できるが、他に情報がなく、正確な数値は確定できない。今回の案では、石室天井石上面(146.07 m)より 10 大尺(3.54 m)の高さを取り、149.6 mに復元した。



第1図 キトラ古墳墳丘復元案（平面図）



第2図 キトラ古墳墳丘復元案（立面図）